

◆授業設計のポイント◆

- ・ 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具体化
- ・ 思考を広げ深める手立ての工夫
- ・ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の授業の工夫

## 美術科学習指導案

学 級 2年1組（男子23名女子17名計40名）  
場 所 第1美術室（3年校舎3階）  
授業者 教 諭 岩 崎 美 紀

### 1 題 材 デザイン

題材名 「鹿児島を手ぬぐいでアピールしよう」

### 2 題材について

現代の日本での日常生活では、タオルあるいはハンカチの使用が多いが、近年では若者の間で手ぬぐいが見直され、風呂敷と同様の包装としての利用方法の提案もあり、現代的なものも含めいろいろな柄の手ぬぐいが和小物の店や手芸店で見るできるようになった。農作業、伝統芸能、祭、剣道などでのかぶり物、ヘルメットの裏地、鉢巻、目隠し、汗ぬぐいなどとして、あるいは布巾として今なお利用されており、また古くからの慣習として商店などの贈答品やイベントの際の記念品としての需要も少なくない。改めて手ぬぐいを意識して見ると、形（模様・柄）や色にさまざまな工夫をしていることに気付く。古典柄には願いや意味があったり、近年のものではハロウィンやクリスマスといった西洋的なものを取り入れた柄があったりする。中学生が奈良・平安の時代からあると言われる手ぬぐいを題材として、見る人が受ける印象を考慮し、伝えたい内容を形や色を整理しながら単純化しつつ、視覚的效果を考えて表現する課題に取り組む。この学習から日本に昔からある物を知り、視覚的效果や他者に伝える表現を学び、他者の作品と交流することで、日本の伝統的な物のよさや作者の表現意図や工夫されたものに表す。そこから視野を広げることにつなげ、日常生活や社会の中に美術を感じるようになる。

本学級の生徒は、美術の授業に興味を持って臨んでいる。美術を学ぶことによって物事の見方の幅が広がる、思考する力がつくと考えている生徒が多く、美術を学ぶ意欲は高い。しかし、受動的な面があり、自分の考えを言葉で伝えたり、友達の意見に対して反論したりすることを苦手としている。自分なりの意味や価値を作り出し、他者と意見を交流することで、自分一人では気付かなかった価値に気付くようにさせたい。

本題材では、2019年は高校総体、2020年は鹿児島国体があり、今後、県外からの多くの中高校生が鹿児島県を訪れることから、この機会に鹿児島県の中学生が鹿児島について深く理解し、県外の人達が一目で分かるような鹿児島をアピールさせたい。鹿児島の代表的な特産品、工芸品、農産物、偉人、観光地にまつわるものからモチーフを選び、鹿児島をイメージする形（模様・柄）、色について考えさせたい。指導にあたっては、今まで教師から与えていた制作の視点を生徒に考えさせ、制作やグループ会議で活用したい。色や形とそこから得られる感情を分析させ、自分でじっくり考えさせる時間を設定する。他者の意見から再び分析を行い、自分の作品の課題に気付かせ、他者と意見を交流することで、知識を得たり、結び付けたり活用したりしながら、自分の価値意識を構築させる。このような学習プロセスを経ることで、生徒の深い学びにつないでいきたい。

### 3 題材の目標

- (1) ア 意図に応じて自分の表現方法を考え、見通しを持って表すことができる。【知識・技能（表現）】  
イ 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解できる。

【知識・技能（鑑賞）】

- (2) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- (3) 生活や社会の中にあるさまざまな模様や柄に関心を持ち、目的意識を持って主体的に話し合いや表現活動を行うことができる。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

#### 4 題材の指導計画（全9時間）

1 題材の把握と鑑賞 (1時間)	「手ぬぐいを理解し、鹿児島を分析しよう」 ・ 手ぬぐいについて解説する。 ・ 題材を把握し、中高生が好む形（模様・柄）を分析し、「どのような内容を」、「誰に伝えるか」などの目的や条件を考えさせる。 ・ 鹿児島についてマッピングし、図で描かせる。
2 表現の発想と構想 (3時間) (本時3/3)	「効果的な形（模様・柄）・配色を考えようⅠ」 ・ マッピングで描いた図を練らせる。 ・ 色について構想させる。
	「効果的な形（模様・柄）・配色を考えようⅡ」 ・ 練った図を2つ選び、形（模様・柄）を考えさせる。 ・ 考えた形（模様・柄）に色を塗って、考えさせる。 ・ 座標軸にできるだけ多くの感想を集め集めさせる。
	「効果的な形（模様・柄）・配色を考えようⅢ」 ・ 座標軸データを分析させ、課題に気付かせ、話し合いの焦点を絞らせる。 ・ グループ会議で形（模様・柄）・色の組合せを練り上げさせる。
3 制作（4時間）	「手ぬぐいを完成させようⅠ」 ・ ゴム版に転写し、彫らせる。
	「手ぬぐいを完成させようⅡ」 ・ ゴム版を彫らせる。
	「手ぬぐいを完成させようⅢ」 ・ 布に版を押させる。
4 鑑賞（1時間）	「手ぬぐいをプレゼンしよう」 ・ 一人20秒ずつ作品のプレゼンし、手ぬぐいで鹿児島をアピールさせる。

#### 5 題材における評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
表現 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しを持って表そうとしている。 鑑賞 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解しようとしている。	伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、模様・柄の表現の構想を練っている。	楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、模様・柄に関心を持ち、創意工夫して表したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとしている。

#### 6 本時の実際（4/9）

- (1) 題材名 「鹿児島を手ぬぐいでアピールしよう」

- (2) 目標（評価基準）

ア 伝える目的や条件を理解し、アイデアスケッチを創造的に再構築することができる。

**【知識・技能（表現）】**

イ 自分の価値意識と照らし合わせ、他者の意見を参考にしつつ、自分の価値意識を持って、グループで意見を交流することができる。

**【知識・技能（鑑賞）】**

ウ 伝える目的や条件などを基に、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

エ 生活や社会の中にあるさまざまな模様や柄に関心を持ち、創意工夫して表したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 授業設計の工夫

ア 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化 研究の視点1

本時における、深い学びのゴールに至った状態を「形や色、それらが感情にもたらす効果などの視点から思考を深め、目的や条件、他者の意見と自分の思い等を総合した上で、より自分の目標イメージに近いデザインができる状態である」と設定した。自分たちで考えた制作の視点と前時までに集めた意見を照らし合わせ、グループ会議を行う。

イ 思考を広げ深める手立ての工夫 研究の視点2

第一印象をグループ会議で分析し、他者が見た印象と自分の制作意図のズレを知り、自分の主題をより伝えられるように鑑賞の手引きを活用した対話活動を行い、思考を深める。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の授業の工夫 研究の視点3

自分の作品分析や自分の目標イメージなどを記録したあと、グループ会議で得た発見は色ペンなどを使い自分の考えに追加して記録させる。

(4) 展開

過程	主な学習活動	時間 形態	指導上の留意点
導 入	1 前回の授業を振り返り、本時の学習課題を設定する。	5分 一斉	アイデアマップで活動の流れを確認し、本時の活動を確認させる。
	<p>〈学習目標〉効果的な模様・柄・色を考えようⅢ 様々な意見をもとに自分なりの最終図案を決定しよう</p>		
	<p>自分の「模様・柄・色」は自分のイメージ通りに相手に伝わるだろうか。より良くするための改善点を明確にしたい。</p>		
展	2 座標軸データを分析する。	1分	課題に気付かせ、話合いの焦点を絞らせる。
	3 グループ会議を行う。4人グループを作る。	20分 グループ	意見を集めた座標軸データと目標イメージをプレゼンしてから他者からの意見をもろう。 自分の見方と他者の見方を比較することで、視野を広げ、多面的・多角的な捉え方をさせ新たな発見をさせる。
開	<p>「気付き」 P1：なぜ、鹿児島島のイメージが伝わらないのだろう。 P2：中学生や高校生が好む手ぬぐいの色ってどれだろうか。</p>		
	<p>③論理的思考力 適切なことばや方法で、自らの考えとその根拠を説明することができる。(レベル3)</p> <p>④協働する力 集団として最適解や納得解を提案することができる。(レベル4)</p>		

展	<p>「納得」</p> <p>P1：桜島らしく形を改善すると鹿児島島のイメージが伝わりそうだ。</p> <p>P2：明度の高い色の方が中学生や高校生の好みようだ。</p> <p>P3：友達のアドバイスの方が分かりやすかったので、面白くなりそうだ。</p>		
	4 アイデアスケッチの変更点を確認し、再度練る。	17分 個	<p>付箋に書いてもらった変更点で特に大切なところに線を引かせ、アイデアマップの変更点の記入場所に箇条書きで考えをまとめさせる。</p> <p>グループで出した意見を参考に、形と色を再構成する。</p> <p>自分の価値意識や思いも大切にしよう声かけをする。</p>
	5 発表する。	4分 一斉	<p>教師が机間巡視で組み合わせがよりよく変化した生徒と自分の価値意識を大切に、変化しなかった生徒の作品を1名ずつ選び発表させる。</p>
	6 本時の感想、気付いた点や新しい発見などを記入する。	2分 個	<p>本時に気付いたことをアイデアマップにメモさせる。</p>
開	<p>「意志」</p> <p>P1：一目で鹿児島だと伝えられるように、さらに工夫したい。</p> <p>P2：今より色の明度を高めにしてみたい。</p> <p>P3：形を工夫して男子も買いやすい模様になりたい。</p>		
	<p>本時の「深い学びのゴール」</p> <p>形や色、それらが感情にもたらす効果などの視点から思考を深め、目的や条件、他者の意見と自分の思い等を総合した上で、より自分の目標イメージに近いデザインができる状態である。</p>		
終末	7 次回の説明を聞く。	1分 一斉	次回の説明をする。